



外国出張報告書

平成 26 年 3 月 30 日

1. 出張国名 モザンビーク
2. 出張月 平成 25 年 11 月～12 月
3. 出張目的 JICA 技プロ「ナカラ回廊農業開発研究・技術移転能力向上プロジェクト」における研究調査業務（H25 年度第 3 回目）：A

4. 成果の概要

NTC インターナショナル（株）を幹事会社として、JICA から受託している「ナカラ回廊農業開発研究・技術移転能力向上プロジェクト」の第 3 年次契約に基づく活動として、今回第 3 回目の渡航にて、副チーフアドバイザー兼栽培 1 専門家として現地業務を行った。これは、日伯モの三角協力プログラム ProSAVANA の一プロジェクト（略称 PI）である。

多地点連携圃場試験を準備し開始した。今年は 3 年目であるが、これまでの試験場内での試験から農家圃場での試験へと転換した。これは技術の検証とともに、意思決定支援システムの構築のための農家経営のデータ獲得を目的としている。

リシंगा、グルエならびにナンプラの周りの村を順に訪れ、それぞれ 8～10 戸の参加農家の圃場にて播種作業を行った。

一方 ProSAVANA-PI にとっては、10 月に中間評価が終わり、評価結果に対する対処方針を決め実行に移す時期である。

まずは日本チームの専門家団内で、その後技術調整会議（TCM）の場において三国間での話し合いに参加した。

市民社会への対応として PI の成果をモザンビーク農業研究の中にしっかりと位置付けて発信するための集会（ナカラ回廊農業研究集会）の開催などが具体化されたが、PI と PEM（開発普及モデルプロジェクト）との連携は、PDM の改訂も含めこれからの課題となった。